

株式会社トプコン 2025年3月期第2四半期説明会

代表取締役社長 CEO
江藤 隆志

2024年10月30日



イベント概要

[企業名]	株式会社トプコン		
[イベント種類]	決算説明会		
[イベント名]	2025年3月期第2四半期 決算説明会		
[決算期]	2025年3月期		
[日程]	2024年10月30日		
[時間]	15:30 – 16:20 (合計：50分、プレゼンテーション：20分、質疑応答：30分)		
[開催方式]	オンライン開催（ライブ配信）		
[登壇者]	3名		
	代表取締役社長 CEO	江藤 隆志	
	取締役 専務執行役員 財務本部長	秋山 治彦	
	執行役員 経営推進本部 副長	平山 貴昭	

2025年3月期第2四半期説明会 決算ハイライト



● FY24上期実績

連結

売上高 **1,055億円**
前年同期比 +1%
営業利益 **30億円**
前年同期比 ▲22%
売上高は前年並みも、減益

ポジショニング事業

前年同期比
売上高
営業利益
農機市場減速の影響で減収、**構造改革による固定費削減は計画通りも減益**

アイケア事業

前年同期比
売上高
営業利益
売上堅調で、成長投資にかかる費用増も増益

● FY24通期見通し

連結

新公表値

売上高 **2,200億円**
前年度比 +2%
営業利益 **120億円**
前年度比 +7%

ポジショニング事業

前年度比
売上高
営業利益
IT農業の販売減も、**構造改革により増益を見込む**

アイケア事業

前年度比
売上高
営業利益
**期初計画から変更なし
売上高・営業利益ともに過去最高見込む**

©Topcon Corporation

TOPCON 3

決算ハイライト

・ 2024年度第2四半期実績

連結：売上高は前年並みも、減益

ポジショニング事業：農機市場減速の影響で減収、構造改革による固定費削減は計画通りも減益。

アイケア事業：売上堅調で、成長投資にかかる費用増も増益

・ 2024年度通期見通し

連結：期初計画を修正し、売上高2,200億円、営業利益120億円に変更

ポジショニング事業：IT農業の販売減も、構造改革により増益を見込む

アイケア事業：期初計画から変更なし。売上高・営業利益ともに過去最高を見込む

01 FY24 第2四半期決算報告

- 連結決算
- 事業別の状況 | ポジショニング事業
- 事業別の状況 | アイケア事業

02 FY24 通期見通し

- 連結見通し
- 事業別の見通し | ポジショニング事業
- 事業別の見通し | アイケア事業

03 トピックス

- ポジショニング事業 | 構造改革の進捗
- ポジショニング事業 | IT農業市場向け戦略製品を発売
- アイケア事業 | “Healthcare from the Eye”の推進

04 まとめ

- FY2024 第2四半期決算発表のまとめ

05 参考資料

- 業績推移
- 地域別売上高
- 設備投資・減価償却費・研究開発費 / 為替感応度
- 統合報告書「TOPCON REPORT 2024」を発行

FY24 第2四半期決算報告

01

- 連結決算
- 事業別の状況 | ポジショニング事業
- 事業別の状況 | アイケア事業

 TOPCON

連結決算



(単位：億円)	FY2023 上期実績	FY2024 上期実績	前年同期比	%
売上高	1,045	1,055	+10	+1%
売上総利益	550	560	+10	+2%
売上総利益率	52.6%	53.1%	+0.5pt	
販管費	512	531	+19	+4%
営業利益	38	30	▲8	▲22%
営業利益率	3.7%	2.8%	▲0.8pt	
経常利益	34	4	▲30	▲89%
特別損益	▲14	-	+14	-
中間純利益	6	1	▲5	▲90%
為替換算レート (期中平均)	USD 141.31円	152.30円	+10.99円	
	EUR 153.51円	165.46円	+11.95円	

為替効果を除く
前年同期比
▲54億円 (▲5%)

為替効果を除く
前年同期比
▲14億円 (▲3%)

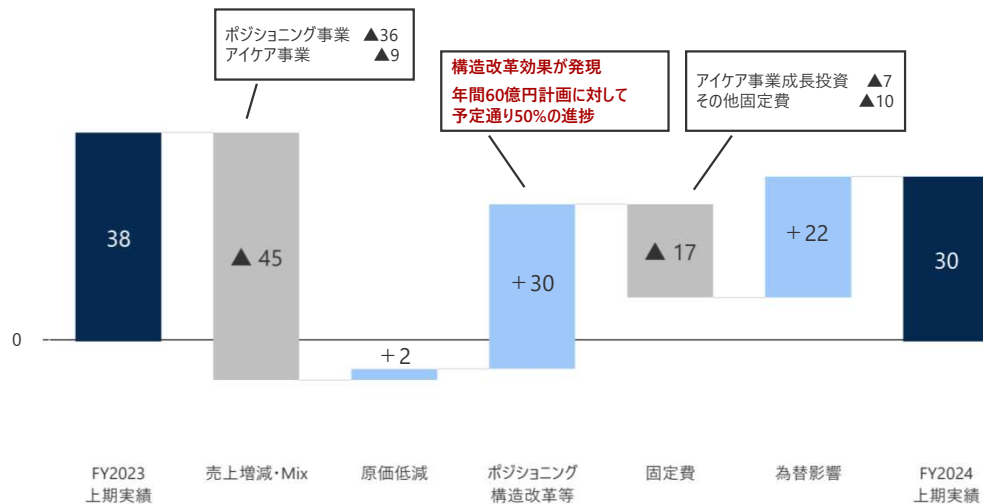
連結決算

- ・売上高は1,055億円（+1%増収）も、円安による為替効果を除くと減収
- ・ポジショニング事業の構造改革効果が発現、アイケア事業は成長投資を継続しながらも、販管費を為替影響を除き前年比▲14億円に抑制。しかしながら、売上減少をカバーしきれず営業減益
- ・営業外費用で為替差損と支払利息増加の影響で、経常利益も減益
- ・為替は、ドル11円、ユーロ12円程度の円安

連結決算 | 上期増減益分析 (営業利益の前年同期比較)



(単位：億円)



©Topcon Corporation

TOPCON | 7

営業利益の増減益分析

- ・ FY2023上期実績38億円から、
 - 売上増減・Mix効果：▲45億円（このうち、ポジショニング事業が▲36億円、アイケア事業が▲9億円）
 - 原価低減効果：+2億円
 - ポジショニング事業の構造改革等の効果：30億円と、計画（年間60億円）に対して50%の進捗
 - 固定費効果：▲17億円と、計画（年間65億円）に対して抑制（このうち、アイケア事業の成長投資▲7億円、その他固定費▲10億円）
 - 為替影響：+22億円。円安による効果
- ・ 以上、トータルでFY2024上期実績は30億円

事業別の状況 | ポジショニング事業



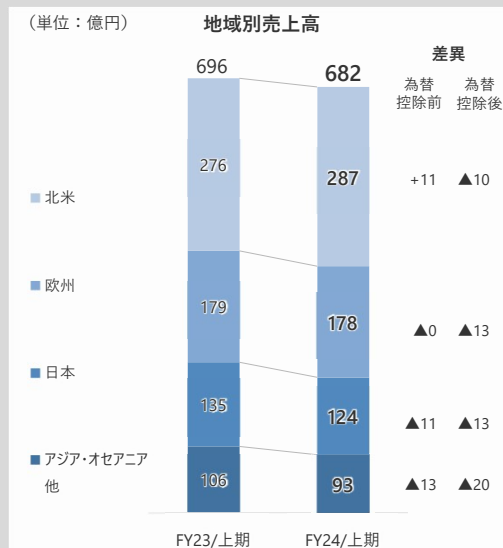
- 農機市場減速の影響で減収、**構造改革による固定費削減は計画通りも減益**

(単位：億円)		FY2023 上期実績	FY2024 上期実績	前年同期比	%
売上高		696	682	▲14	▲2%
営業利益		49	41	▲8	▲17%
営業利益率		7.0%	6.0%	▲1.0pt	
為替換算レート (期中平均)	USD	141.31円	152.30円	+10.99円	
	EUR	153.51円	165.46円	+11.95円	

為替効果を除く
前年同期比
売上高▲56億円 (▲8%)

ポジショニング事業の状況

- ・ 農機市場減速の影響で減収、構造改革による固定費削減は計画通りも減益
- ・ 売上高は682億円と前年同期比▲14億円減収
- ・ 構造改革による固定費削減効果は計画通りに発現したが、営業利益は41億円と▲8億円減益
- ・ 為替効果を除くと▲56億円減収



北米

- ✓ ICT施工は、市中在庫の安定化やインフラ需要等によりアフターマーケット（※）中心に販売回復基調
- ✓ IT農業は、穀物価格下落による投資抑制の影響が継続

欧州

- ✓ IT農業は、穀物価格下落による投資抑制の影響が継続

日本

- ✓ ICT施工は、杭ナビショベル中心に堅調
- ✓ 測量機は、新製品発売遅延と市中在庫調整影響で販売減少

アジア・オセアニア

- ✓ アジアは、中国の測量機が販売減少
- ✓ オセアニアでICT施工と測量機・レーザーが販売減少

※ アフターマーケット： ICT施工・IT農業の後付けシステムの販売

ポジショニング事業の地域別の状況

- （今回から、地域別売上についても、為替の影響を控除した差異をご説明）
- ・ 為替控除後では、北米、欧州、日本、アジア・オセアニアの各地域で減収

各地域の主な増減要因は、

北米：ICT施工は、市中在庫の安定化やインフラ需要等によりアフターマーケット中心に販売回復基調。IT農業は、穀物価格下落による投資抑制の影響が継続し販売が減少

欧州：IT農業は、穀物価格の下落による投資抑制の影響で北米同様に販売が減少

日本：ICT施工は杭ナビショベル中心に堅調。測量機は、新製品の発売遅延が発生したこと、市中在庫調整が続いたことから販売が減少

アジア・オセアニア：中国は測量機が販売減少。オセアニアは欧米同様苦戦

事業別の状況 | アイケア事業



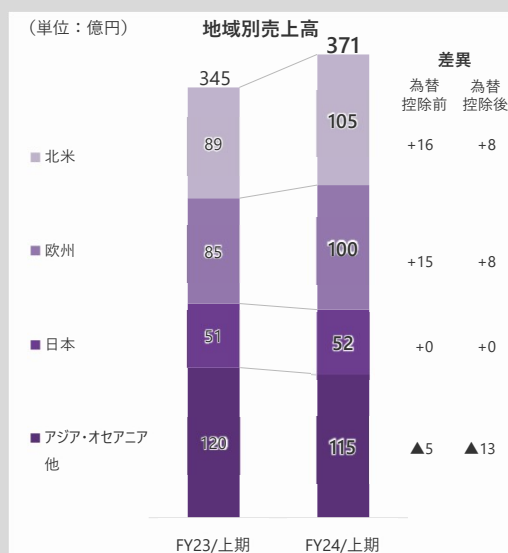
- 売上堅調で、成長投資にかかる費用増も増益

(単位：億円)		FY2023 上期実績	FY2024 上期実績	前年同期比	%
売上高		345	371	+27	+8%
営業利益		13	14	+1	+9%
営業利益率		3.7%	3.7%	0pt	
為替換算レート (期中平均)	USD	141.31円	152.30円	+10.99円	
	EUR	153.51円	165.46円	+11.95円	

為替効果を除く
前年同期比
売上高+4億円 (+1%)

アイケア事業の状況

- ・売上高は371億円と前年同期比+27億円と堅調
- ・成長投資にかかる費用が増加したが、営業利益は14億円と+1億円増益
- ・為替効果を除いても+4億円増収



北米

- ✓ 大手眼鏡チェーン店向け中心に堅調な販売が継続
- ✓ 北米経営陣を刷新し直販体制を構築、眼科医向けビジネスを強化

欧州

- ✓ 地域差はあるも、大手眼鏡チェーン店向けを含め堅調な販売が継続
- ✓ 眼底カメラは大型入札獲得など販売好調

アジア・オセアニア

- ✓ 中国は、保険償還遅延・削減による病院経営悪化、腐敗防止による入札減少影響で販売大幅減
- ✓ 中国を除くインドなどアジア地域は、継続的な入札案件の獲得等により販売増

アイケア事業の地域別売上高の状況

(ポジショニング事業と同様、今回から、地域別売上についても、為替の影響を控除した差異をご説明)

- ・中国の販売減が影響しているアジア・オセアニアを除く各地域で増収

各地域の主な増減要因は、

北米：大手眼鏡チェーン店向け中心に堅調な販売が継続。北米経営陣を刷新し直販体制を構築、眼科医向けビジネスを強化

欧州：地域差はあるも、大手眼鏡チェーン店向けを含め堅調な販売が継続。眼底カメラは大型入札獲得など販売好調

アジア・オセアニア：中国が保険償還遅延・削減による病院経営悪化、腐敗防止による入札減少の影響から販売大幅減。中国を除くインドなどアジア地域は、継続的な入札案件の獲得等により販売増

FY24 通期見通し

02

- 連結見通し
- 事業別の見通し | ポジショニング事業
- 事業別の見通し | アイケア事業

連結見通し



- 下方修正：ポジショニング事業は回復に遅れ。アイケア事業は期初想定から変更なし

修正理由

- ✓IT農業は穀物価格下落により欧米の市況改善が望めず
- ✓測量機は新製品発売遅延と国内の上期在庫調整が影響
- ✓構造改革は計画どおり進捗

対策（下期注力事項）

- ✓IT農業の戦略的新製品投入と欧米販売網強化で需要創出
- ✓Q3以降、測量機新製品 4機種を順次リリース予定
- ✓売上減に合わせて費用抑制を強化

新公表値

(単位：億円)	旧公表値 (7/30)	新公表値 (10/30)	旧公表値比	FY2023 通期実績
売上高	2,300	2,200	▲100	2,165
営業利益	180	120	▲60	112
経常利益	155	80	▲75	89
純利益	95	45	▲50	49
ROE	9%	4%	-5pt	5%
配当	42円	42円	0	42円
配当性向	47%	98%	+51pt	90%
為替換算レート (期中平均)	USD 145.00円	145.00円		144.40円
	EUR 155.00円	155.00円		156.80円

Q2以降前提レート

Q3以降前提レート

©Topcon Corporation

TOPCON | 13

通期の見通し

- ・ポジショニング事業で回復に遅れがみられるため、下方修正
- ・アイケア事業は期初想定から変更なし

修正の理由

- ・IT農業は穀物価格下落により欧米の市況改善が望めないと判断
- ・測量機は新製品発売遅延と国内の上期在庫調整が影響した
- ・一方で、構造改革は計画どおり進捗している

このような状況に対する、下期注力事項

- ・IT農業の戦略的新製品投入と欧米販売網強化で需要創出
- ・Q3以降、測量機新製品 4機種を順次リリース予定
- ・売上減に合わせて費用抑制を強化

営業利益と経常利益の差は為替差損の増加
配当変更なし

連結見通し | 事業別売上高の状況

- 測量機・レーザー機器、IT農業を中心に期初見通しを変更

➡ 前年同期比（前年度比）プラス
➡ 前年同期（前年度）並み
⬅ 前年同期比（前年度比）マイナス

赤枠 期初見通しからの変更点

参考：期初見通し

セグメント	ソリューション	主要なマーケット※2	FY2023		FY2024	
			上期	下期	上期	下期(見通し)
ポジショニング事業	測量機・レーザー機器	測量・建設	➡	⬅	➡	➡
	ICT施工※1	OEM	➡	⬅	➡	⬅
		アフターマーケット	⬅	⬅	➡	➡
	IT農業※1	OEM	➡	⬅	⬅	⬅
		アフターマーケット	⬅	⬅	⬅	➡
アイケア事業	検眼・診断機器	医療機関/ 大手眼鏡チェーン店/ドラッグストア	➡		➡	➡
	スクリーニング・ その他サービス	医療機関/ 大手眼鏡チェーン店/ドラッグストア	➡		➡	➡

※1 ドル建てベースで比較

※2 OEM：建設機械メーカー、農業機械メーカーに販売
アフターマーケット：ICT施工・IT農業の後付け販売

FY2024	
上期	下期
➡	➡
⬅	➡
➡	➡
➡	➡
➡	➡
➡	
➡	

事業別売上高の状況

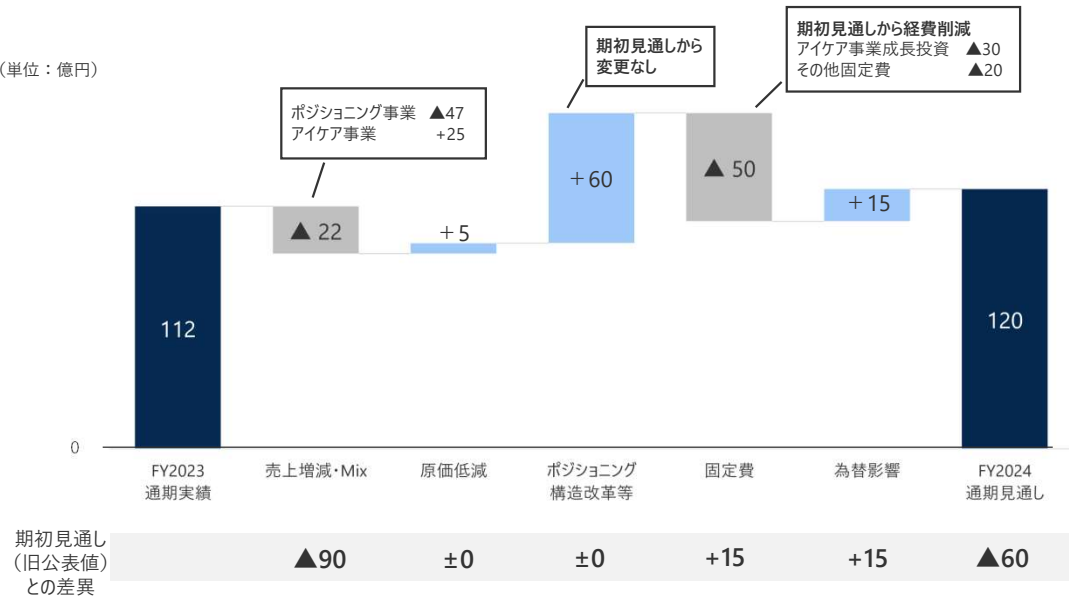
期初見通しからの変更点を赤枠で表示

- ・ 測量機・レーザー機器、IT農業を中心に期初見通しを変更

連結見通し | 増減益分析 (営業利益の前年度比較)



(単位: 億円)



©Topcon Corporation

TOPCON | 15

連結見通しの営業利益の増減益分析

(スライド下に旧公表値との差異を記載)

- ・ FY2023実績112億円から、

売上増減・Mix効果：ポジショニング事業の販売減が影響し▲22億円

原価低減効果：+5億円

ポジショニング事業の構造改革等の効果：期初見通し（旧公表値）から変更なし。年間60億円の利益貢献を見込む

固定費効果：▲50億円と期初見通し（旧公表値）の年間65億円に対して抑制

為替影響：+15億円。円安による効果

- ・ 以上、トータルでFY2024見通しは120億円

事業別の見通し | ポジショニング事業



- 農機市場減速が想定以上で、売上高・営業利益計画を下方修正
- 構造改革により増益を見込む

(単位：億円)	旧公表値 (7/30)	新公表値 (10/30)	旧公表値比	FY2023 通期実績
売上高	1,470	1,370	▲100	1,404
営業利益	165	100	▲65	91
営業利益率	11.2%	7.3%	▲3.9pt	6.5%
為替換算レート (期中平均)	USD	145.00円		144.40円
	EUR	155.00円		156.80円
Q2以降前提レート		Q3以降前提レート		

ポジショニング事業の見通し

- ・ 農機市場減速が想定以上で、売上高を▲100億円、営業利益を▲65億円下方修正
- ・ 前年度との比較では、構造改革により増益を見込む

事業別の見通し | アイケア事業



- 期初計画から変更なし
- 売上高・営業利益ともに過去最高を見込む

(単位：億円)	旧公表値 (7/30)	新公表値 (10/30)	旧公表値比	FY2023 通期実績
売上高	820	820	-	752
営業利益	75	75	-	67
営業利益率	9.1%	9.1%	-	8.9%
為替換算レート (期中平均)	USD	145.00円	145.00円	144.40円
	EUR	155.00円	155.00円	156.80円

Q2以降前提レート

Q3以降前提レート

アイケア事業の見通し

- ・ 期初計画から変更なし
- ・ 売上高・営業利益ともに過去最高を見込み、売上高は中期経営計画の目標をほぼ達成する水準

トピックス

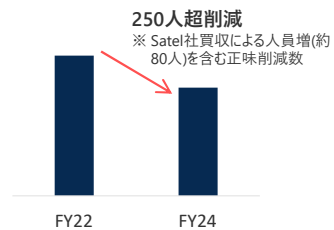
03

- ポジショニング事業 | 構造改革の進捗
- ポジショニング事業 | IT農業市場向け戦略製品を発売
- アイケア事業 | "Healthcare from the Eye"の推進



● 欧米における組織体制の適正化

✓ 欧米中心に人員適正化が一巡



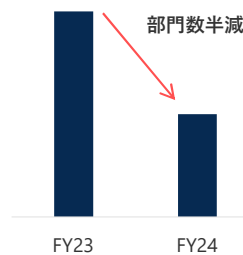
✓ 新CEO就任 (2024年9月～)、引き続き構造改革に注力



イヴァン・デ・フェデリコ
(トプコンポジショニングシステムズ社長)
2005年に当社入社以来、前CEOのレイ・オコーナーと共に戦略やイノベーションの面からポジショニングビジネスの成長を推進

● 国内アジアの組織スリム化

✓ 販売体制見直しによる階層構造解消



● 製品企画・開発組織改革による新製品投入の加速

✓ 国内企画・開発マネジメント体制強化の効果が発現



ポジショニング事業の構造改革の進捗

1) 欧米における組織体制の適正化

- ・ 欧米中心に人員適正化が一巡、Satel社買収による人員増(約80人)を含む正味250名以上の人員を削減
- ・ 新CEOにイヴァン・デ・フェデリコ

2) 国内アジア組織のスリム化

- ・ 販売体制見直しによる階層構造解消
- ・ 実質的に、部門数が半減し、販売業務を合理化できた

3) 製品企画・開発組織改革による新製品投入の加速

- ・ 国内企画・開発マネジメント体制強化の効果が発現しつつある
- ・ 下期以降、新製品投入を加速していく



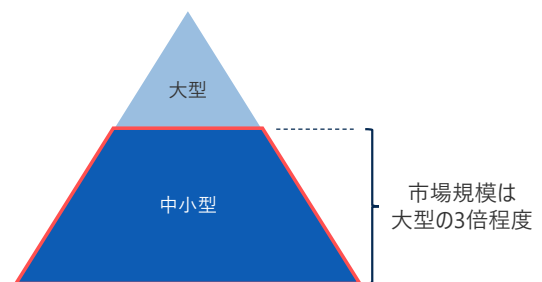
- 中小型農機向けに、廉価型オートステアリングシステムを市場投入
- アフターマーケットを足掛かりに、中小型トラクター市場を攻略、OEM展開を視野に販売強化

自動操舵システム：Value Lineモデル



農業用トラクターの市場規模※

主要市場（欧米）：約50万台/年



※ 2023年時点の市場規模 (当社調べ：エンジンパワー 75kW～を大型、
エンジンパワー ～75kWを中小型と定義)

©Topcon Corporation

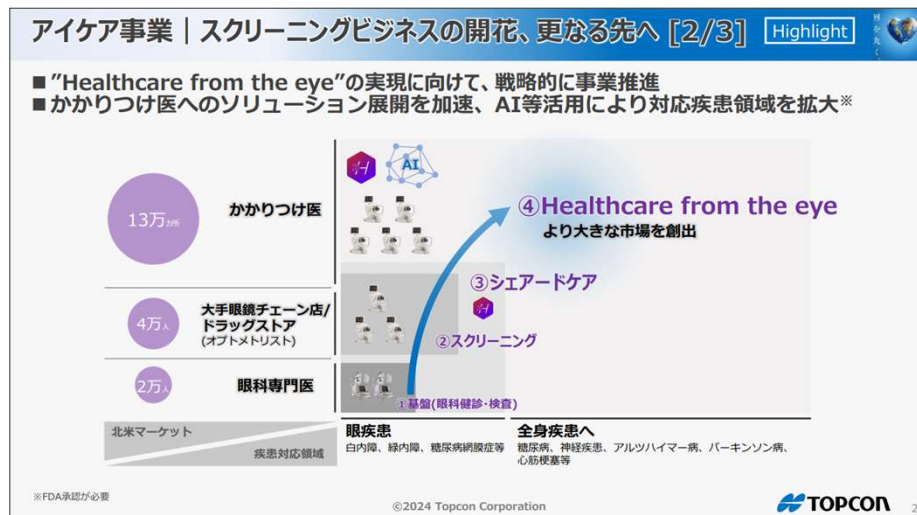
TOPCON | 20

IT農業市場向け戦略製品

- ・ 中小型農機向けに、廉価型オートステアリングシステムであるValue Lineモデルを市場投入
- ・ 中小型農機は、大型農機と比較して、圧倒的に市場規模が大きい。たとえば主要市場の欧米では3倍程度の市場あり、グローバルでも大きな市場
- ・ まずアフターマーケットを足掛かりに中小型トラクタ市場を攻略、OEM展開を視野に販売強化する予定



- “Healthcare from the Eye”の実現に向けて



アイケア事業のトピックス

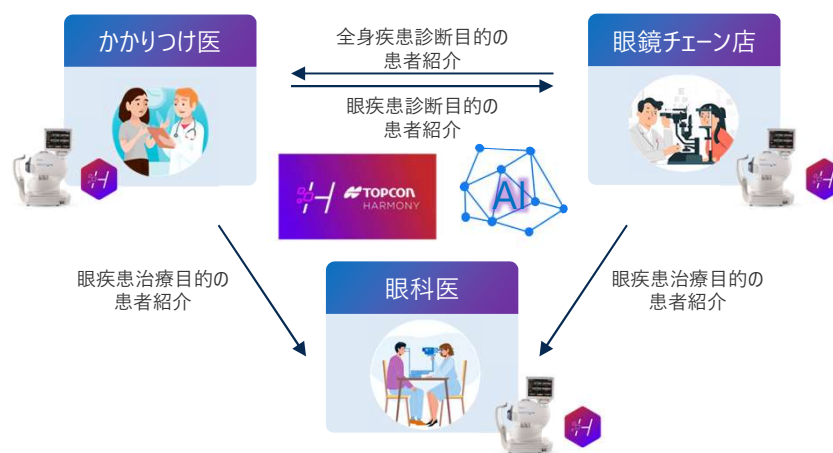
- ・ 2023年度本決算時（5月10日）に、マイクロソフト社と戦略的にパートナーシップを締結したことを説明した際に、このスライド “Healthcare from the Eye”について紹介
- ・ 続く3枚のスライドで、事業構想と直近の取り組みをご説明



アイケア事業 | “Healthcare from the Eye”の推進 (1/3)

DX加速

- かかりつけ医・眼鏡チェーン店・眼科医におけるスクリーニング・エコシステムによって、全身疾患を早期発見
- AI診断により専門医でなくても健診可能。かかりつけ医・眼鏡チェーン店・眼科医の3者で、メリット享受
- 疾患の早期発見と紹介を通じた早期治療により、患者の負担・医療費を大幅削減



※FDA承認が必要
※日本においては 医師不在の眼鏡店等は対象外

当社のスクリーニング機器+プラットフォーム+AIにより実現

©Topcon Corporation

TOPCON | 22

“Healthcare from the Eye”の推進

事業構想の概要

- ・ かかりつけ医・眼鏡チェーン店・眼科医の3者が相互に連携したヘルスケア・エコシステムの構築を目指す

このエコシステムが目指している世界

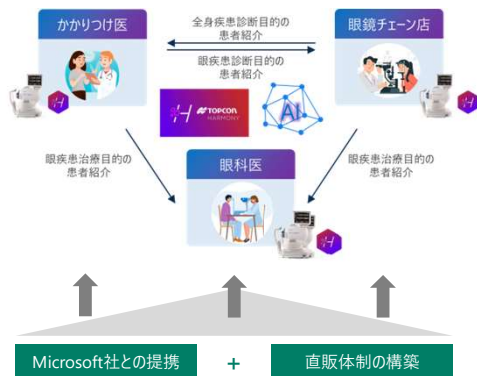
- ・ かかりつけ医・眼鏡チェーン店・眼科医のそれぞれで、患者にスクリーニングの機会を提供、全身疾患の早期発見を実現できる
- ・ AI診断により専門医でなくても健診可能。そして、かかりつけ医・眼鏡チェーン店・眼科医の3者が、メリットを享受できる
- ・ 疾患の早期発見と、紹介を通じた早期治療が可能となって、医療費を大幅削減できる

この構想は、当社のソリューションである「スクリーニング機器+プラットフォーム+AI」の3つがなければ実現することができない



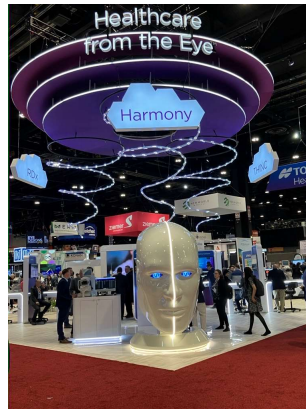
- 北米の直販体制を構築、眼鏡チェーン店に加え眼科医に向けて事業構想をプロモーション
- 全米最大の眼科学会(AAO)で眼科専門医からも高評価

販売力強化



学会・展示会

眼科専門医向け学会
米国眼科学会AAO (シカゴ、24年10月)



オプトメトリー向け展示会
Vision Expo West (ラスベガス、24年9月)



©Topcon Corporation

TOPCON | 23

“Healthcare from the Eye”の推進

事業構想を実現するための直近の取り組み

1) 北米での販売力強化に取り組んでいる

- ・エコシステムの実現のためには、かかりつけ医・眼鏡チェーン店・眼科医の3者に対して、アクセスできる体制が必要
- ・マイクロソフト社との提携、直販体制の構築により、これを実現していく

2) 事業構想や当社のビジョンを伝えていく活動にも力を入れている

- ・全米最大の眼科学会(AAO)では、眼科専門医からも、非常に高い評価を得ることができた



- Maestro2のOCT-Angiography撮影機能、米国FDAの認証取得（2024年8月）
→ 北米での当社スクリーニング機器の普及加速へ

ソリューション展開

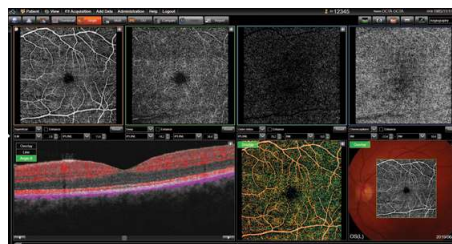
米国でFDA認証を取得

- 米国初・唯一のOCT-Angiography撮影機能搭載のフルオートOCT

Maestro 2
三次元眼底造影装置

OCT-Angiography撮影機能とは

- 薬剤を注射せず血管を可視化できる非侵襲検査
- 患者の負担を軽減し、疾患の早期発見に貢献



眼鏡チェーン店・眼科医を含めてユーザー層の裾野を拡大

©Topcon Corporation

TOPCON | 24

“Healthcare from the Eye”の推進

事業構想を実現するための直近の取り組み

3) ソリューション展開も順調に推進

・ 2024年8月に、Maestro2のOCT-Angiography撮影機能で、米国FDAの認証を取得することができた

・ OCT-Angiography撮影機能を搭載したフルオートOCTとしては、米国で初・現在利用可能な唯一の機器

（OCT-Angiography撮影機能とは薬剤を注射せず血管を可視化できる非侵襲検査。患者の負担を軽減）

・ 眼鏡チェーン店・眼科医を含めてユーザー層の裾野を拡大し、当社スクリーニング機器を普及させていく



まとめ

04

• FY2024 第2四半期決算発表のまとめ

 TOPCON

FY2024 第2四半期決算発表のまとめ

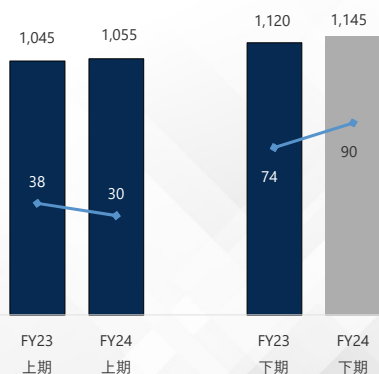


連結（通期）

売上高 2,200億円 前年度比 +2%

営業利益 120億円 前年度比 +7%

売上高
営業利益
(単位：億円)



通期見通しを下方修正

- ✓ 下期は増収増益を見込むも、低水準に推移した上期分の挽回には至らず下方修正

ポジショニング事業

- ✓ IT農業中心に引き続き厳しい事業環境が予想されるものの、新製品投入等による販売テコ入れと構造改革によるコスト抑制に努め増益を見込む

アイケア事業

- ✓ 成長投資を継続しつつも収益性は計画通り改善

©Topcon Corporation

TOPCON | 26

FY2024 第2四半期決算発表のまとめ

売上高と営業利益を上期（左側）と下期（右側）に分けて表示

- ✓ 通期見通しを下方修正： 上期は増収減益となった。下期は増収増益を見込むも、低水準に推移した上期分の挽回には至らず下方修正
- ✓ ポジショニング事業： IT農業中心に引き続き厳しい事業環境が予想されるものの、新製品投入等による販売テコ入れと構造改革によるコスト抑制に努め増益を見込む
- ✓ アイケア事業： 成長投資を継続しつつも収益性は計画通り改善



参考資料

05

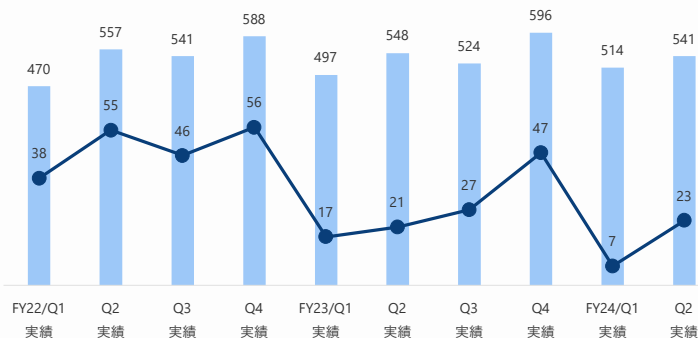
- 業績推移
- 地域別売上高
- 設備投資・減価償却費・研究開発費 / 為替感応度
- 統合報告書「TOPCON REPORT 2024」を発行



四半期

(単位：億円)

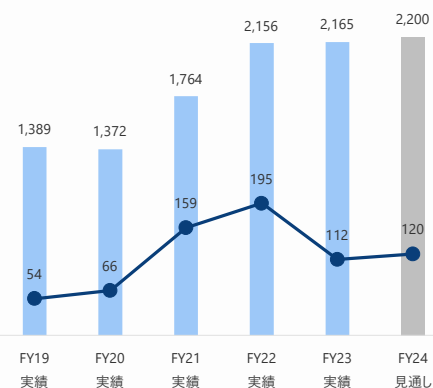
売上高 営業利益



通期

(単位：億円)

売上高 営業利益

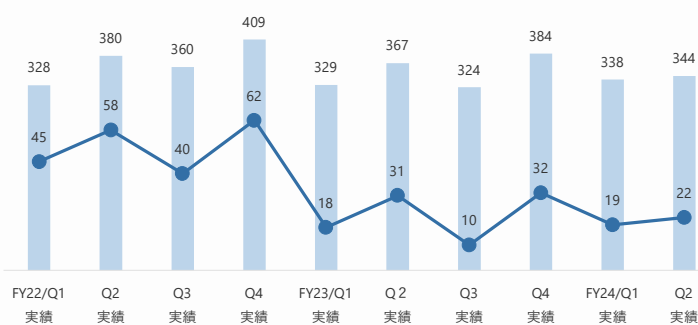




四半期

(単位：億円)

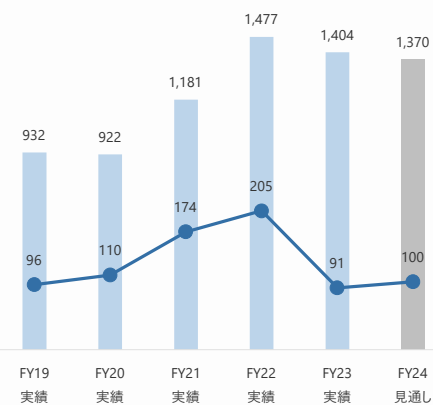
売上高 営業利益



通期

(単位：億円)

売上高 営業利益

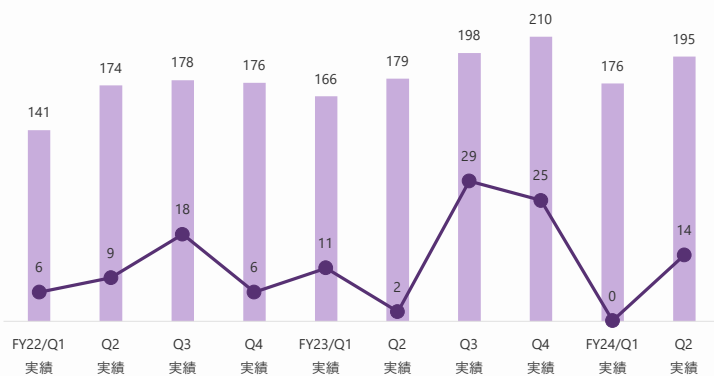




四半期

(単位：億円)

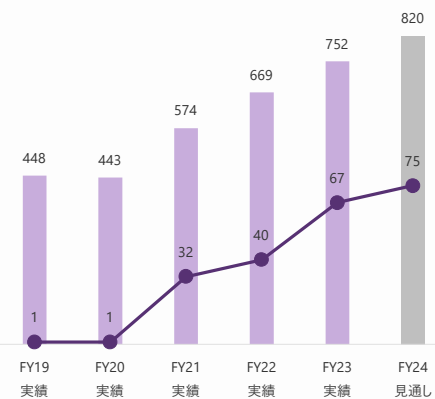
売上高 営業利益

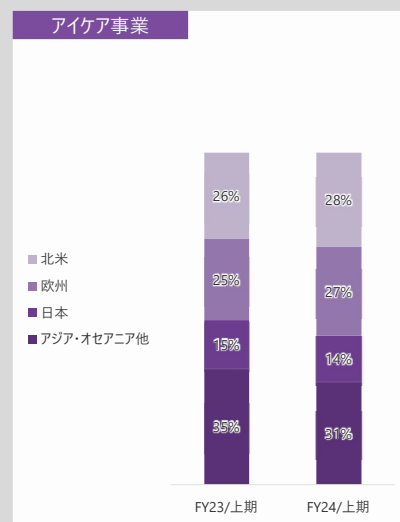
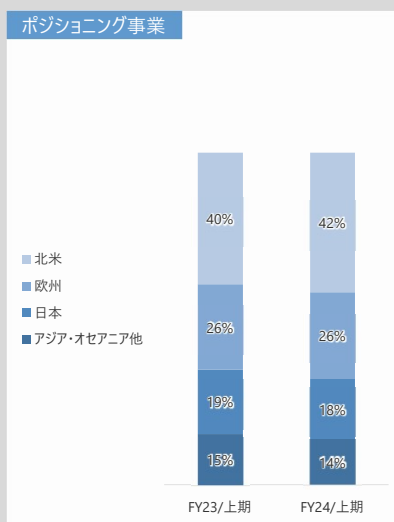
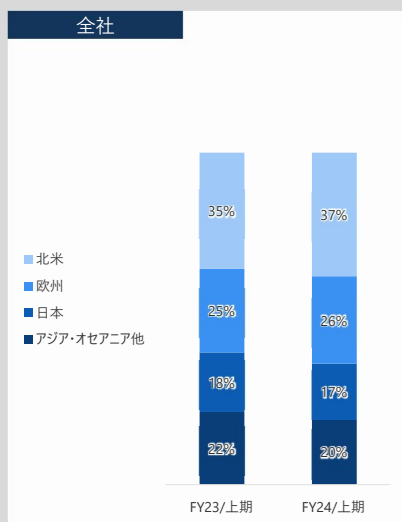


通期

(単位：億円)

売上高 営業利益



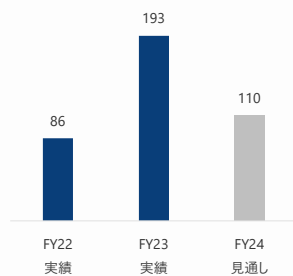


設備投資・減価償却費・研究開発費 / 為替感応度



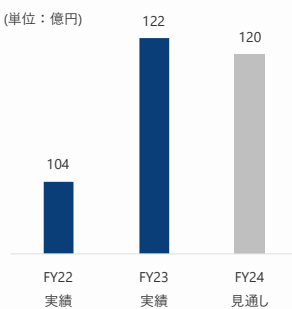
設備投資

(単位：億円)



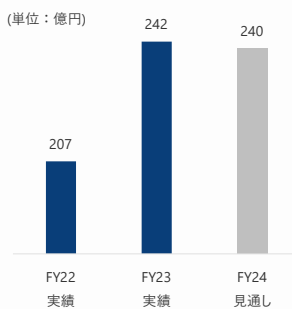
減価償却費

(単位：億円)



研究開発費

(単位：億円)



為替感応度

(1円の変動による影響額)

	営業利益
USD	1.5～2億円
EUR	0.7～1億円

統合報告書「TOPCON REPORT 2024」を発行①



■ 表紙



<https://www.topcon.co.jp/invest/library/integration/>

■ 価値創造ページより抜粋



統合報告書「TOPCON REPORT 2024」を発行②

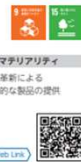


■ サステナビリティページより抜粋

事業を通じた環境への貢献

「いぶき2号」を通じて、温室効果ガス排出削減目標達成に貢献

世界初の温室効果ガス観測の専用衛星「いぶき2号」(GOSAT-2) (2018年10月29日打ち上げ)の後継機「いぶき2号」(GOSAT-2)にトプコンの光学ユニットが搭載されています。この衛星は、地球の温室効果ガスや微粒子状物質(PM2.5)の濃度観測を目的とし、現在も運用が続いており、2023年10月には運用開始5周年を記念しJAXA(宇宙航空研究開発機構)より感謝状を贈呈いただきました。



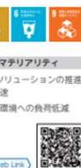
マテリアリティ

- 技術革新による数値的な製品の提供



環境への負荷低減のための農業自動化

アイルランドの大規模ジャガイモ農場では、生産性を維持しながら農業などの化学物質を減らすことが課題でした。そこで、トプコンの「レーザー式生育センサー」を活用し、継続的に調査・分析、肥料や農薬の量に起因する土壌の変化とジャガイモの生育度合いの相関関係を割り出し、過剰な化学物質の削減に成功しました。肥料の最適化で、農作には向いていなかった土地も耕作も可能になり収穫量は増加、自動操縦システムにより、CO₂の削減にもつながっています。



マテリアリティ

- DXソリューションの推進と加速
- 地球環境への負荷低減



地域にも環境にもやさしい道路工事を実現

ノルウェーの道路改良工事において、当社の施工管理ソリューションが採用されました。この道路は従来のルートを大幅に短縮し、交通の安全性や利便性を向上させる重要な工事であると同時に、国道周辺には自然が多く残っているため、野生動物専用の横断歩道を設置するなど環境への配慮も求められました。

当社のソリューションは最適な条件に対応し、3ヶ月の工期短縮や2割の予算削減、効率的な施工によりCO₂排出量の削減も実現、環境に配慮した建設工事の効率化を実現し、地域振興にも貢献しました。



マテリアリティ

- DXソリューションの推進と加速
- 地球環境への負荷低減



ソーラーパネル施設の基礎設置に貢献

近年、地球温暖化対策として再生可能エネルギーの利用が進むなか、大規模なメガソーラー発電施設の建設が進んでいます。しかし、ソーラーパネル設置の際には、座標値が不足している場合が多く、建設業者にとって、作業スピードとコストに課題が生じる場合があります。当社の製品を活用いただくことで、これらの課題解決に寄与し、位置出しのスピードは、従来法に比べ10倍以上まで向上しました。



マテリアリティ

- 地球環境への負荷低減



免責事項

本資料に記載の業績見通し、並びに将来予測は、現在入手可能な情報に基づき、見通しのもとになる前提、予想を含んだ内容を記載しております。
実際の業績は、今後の事業領域を取りまく経済状況、市場の動向により、本資料の業績見通しとは異なる場合がございますので、ご承知おき頂きたくお願い致します。

お問合せ先	株式会社トプコン 経営推進本部 広報・IR部
TEL	: 03-3558-2532
E-mail	: investor_info@topcon.co.jp
URL	: https://www.topcon.co.jp